

はばたき

大分大学教育学部

附属小学校便り

平成28年5月13日

本年度の改革について

～大学との連携、変わる教育実習～

指導教諭 山田眞由美

大分大学教育学部は平成28年度入学生より、大きく教育内容が変わります。大分大学で学んだ学生が今まで以上に社会人として地域に貢献できるように、特に教育現場では子供たちによりよい教育が出来るように、検討を重ねています。そして、本校でもその大学の意向を受け、本年度の5月の教育実習から、大学との論議を重ねてきた新しい内容のものを実施していきます。

より実践的な教育実習を目指して

教育実習主任 田代和馬

「実習では、確実に子どもたちの成長とともに自分の成長につなげなければならない。この実習で“先生”になれなければ、教員採用試験に合格しても現場に立った時に「新任で何もできない」と子どもからも保護者からも他の教職員からも思われてしまう。残りの実習期間で、教師になる術を貪欲に身につけていきたい。（平成27年度教育実習生レポートより一部抜粋）」

附属小学校に教育実習に来る学生は、将来教職に就くことを本気で望み、子どもたちとともに成長したいという熱意にあふれています。これまで、実習期間中に1人あたり2時間程度の授業を実践することが主な実習内容でした。子どもたちにとって良い学びにつながるためにはどのようにすればよいのかを、本気で悩み、迷いながらもそこに全力を注ぎました。

しかし、子どもたちの学校での一日は、5～6時間の授業に加え、朝・帰りの会、チーム掃除、フリートーク、中・昼休み、給食など多岐にわたります。3～5週間の実習期間の中で、2時間の授業に全力を注ぐよりも、より実践的な実習内容へと変革を図ることこそが学生の教職への熱意に応えることにもつながるし、目標に向かって努力する姿から子どもたちが学ぶことにもつながると考えました。

具体的には、次の3点が実習内容の大きな変更点です。

○学級担任との共同指導

学級担任が授業をする際、実習生はその様子を観察するだけでなく、担任と共同して子どもたちの支援に入ります。逆に、実習生が授業をする際、担任が支援に入ることもあります。これにより、実習生が子どもとの効果的な関わり方を学ぶことができるだけでなく、子どもたちの学力向上に資することができます。

○半日・一日学級担任実習

実習生が1人あたり1回以上、半日及び一日学級担任となり、登校から下校まで学級の子どもたちの指導支援にあたります。教科指導等の技能的な実習だけではなく、子どもたちと正面から向き合い心を通い合わせる良い機会となります。担任の先生となるので、宿題のチェックや採点、ノート指導等も行います。不慣れな部分があると思いますが、未来の教師のため、ご理解をお願いいたします。

○授業や子どもたちの生活を支える仕組みを学ぶ

どのように授業を作り上げていくのかを全教職員で研修したり、学年部内で共通理解を図るために話し合ったりする会議を、実習生が見学・参加します。子どもたちの学校生活の「裏側」となる場面の実習となりますが、学校組織の姿を学ぶ良い機会になります。

教育現場には、夢や希望があふれています。「できるようになりたい」と願う子どもたちの熱い眼差しや達成感からくる笑顔に、私たち教職員はエネルギーをもらい、幸せを感じています。しかし、その裏ではう

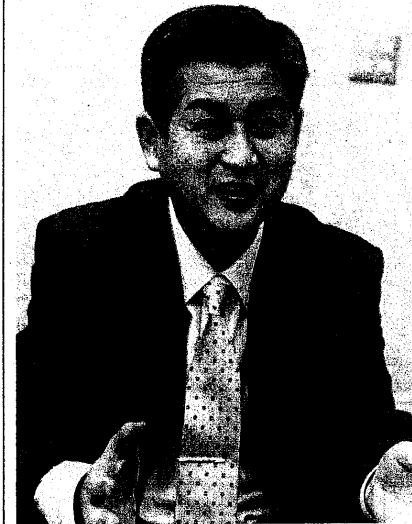
変わる大分大学

学長・学部長インタビュー

—教育福祉科学部が教育し、教育学部は教員養成に学部。何が変わったか。特化した。小学校教育と特別支援教育の2コース制。福祉の融合を図った学部だった。心理・福祉分野を新しい福祉健康科学部に移

教員免許状を取るのに必要な授業だけでなく、教員として実践力が付くための授業を新たに設けた。幼稚園小中学校、特別支援学校の免許状を取得できる。—実践力を付けるための授業とは。

学びたくなる授業力を



「コミュニケーションの資質がある子に来てもらいたい」と話す古賀精治教育学部学部長

他にも、小学校英語演習の授業や、学力・体力向上や不登校、いじめ、学校組織、特別支援といった地域の教育課題を扱う授業も取り入れた。この授業では現職教師を招き現代的課題を学ぶ。

—育てたい教師像とは。分かりやすく、子どもが学びたくなるような授業力があることが一番。子どもが好きで、子どもの成長や発達を一緒に喜べることも大事。学級経営力も必要。—教員採用試験対策は。自信を持って言えるが、すこやかにやっている。授業外で模擬授業や集団討論の練習をするなど、教員も時間を取っている。その積み上げでこの数年の試験合格者数は増えている。学部全体に、学生が自分たちで勉強するという雰囲気がある。

—スクールソーシャルワーカーや部活動の外部指導員など、今後教育現場への外部人材の活用が進みそう。対応は。

—コミュニケーション能力が必要その力を見るため本年度から入試科目を変え、全員に面接を課した。採用試験でも試される。特に、話し言葉によるコミュニケーションの資質がある子に来てもらいたい。

教育学部
古賀精治学部長

まくいわずに悩むこともあり、試行錯誤を繰り返しているのが現実です。本年度変更した教育実習はより実践的な内容であり、前者はもちろん後者も実感できる経験になると思っています。大分大学で教育実習を経験した学生が、日本の将来を担う子どもたちを育む教師として活躍することを大いに期待します。そして、そのために私たち教職員も全力で支えていくとともに、子どもたちと真摯に向き合う実習生のひたむきな姿から学んでいきたいと思ひます。

本校の最大の使命である『教育実習生の育成』ではありますが、昨年までに比べて実習生が授業をすることも多く、不安を感じる保護者の方も多いと思ひます。もちろん、授業はもちろん生活指導の面でもすべて実習生に任せきりというわけではありません。担任は授業の時にはいつも教室にいますし、子供同士のトラブルなどにも対応致しますので、ご理解下さい。

また、一部の子供の中には教育実習生自体に慣れてしまって、「教生」や「実習生」と呼び捨てにしてしまうことも有るようです。もちろん、私たちも教育実習の意味や教育実習生の思いなども話をしますが、ご家庭でも重ねてお話していただけると助かります。

子供たちには目標に向かって真剣に取り組む実習生から授業以上に大切なものを学んで欲しいと思ひます。いえ、きっと学んでくれると思ひています。

なお、大きく改革した本校の教育実習の様子を文部科学省の大学振興課教員養成企画室の柳澤好治室長が視察に来るようになりました。室長の計らいで子どもたちにも出前授業をして下さることにもなりました。限られた時間の中ですので、全員というわけにはいきませんが、6年生と中学1年生に学校での学びが社会に出てどのように役に立つのかなどを話して下さる予定です。国の中心で教育行政を実際に動かす立場の方の話聞くことはこの附属の子どもたちにとって非常に大きいと思ひます。室長の来校は5月23日と24日で、大学でも特別講義を予定しています。